

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2774800581		
法人名	社会医療法人垣谷会		
事業所名	グループホーム田井城の里		
サービス種類	指定認知症対応型共同生活介護(指定介護予防認知症対応型共同生活介護)		
所在地	大阪府松原市田井城6丁目282番地2		
自己評価作成日	2024年10月1日	評価結果市町村受理日	2024年11月22日

【事業所基本情報】(介護サービスの情報公表制度の基本情報リンク先URLを記入)

[https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action=kouhyou\\_detail\\_022\\_kani=true&JigvosvcCd=2774800581-00&ServiceCd=320&Type=search](https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigvosvcCd=2774800581-00&ServiceCd=320&Type=search)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 介護保険市民オンブズマン機構大阪		
所在地	大阪府大阪市北区天神橋3丁目9-27 (PLP会館3階)		
訪問調査日	2024年10月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

経営法人が社会医療法人であり、体調面の変化や急な医療機関での診察や入院が必要になった場合などには迅速に対応できる環境です。また往診医との協力医療機関体制や施設看護師との連携も整え、利用者様方への体調管理については万全を期しております。  
勤務する職員の多くが国家資格を所持し、且つ勤続年数の長いスタッフが揃っており、利用者やご家族に安心安全なサービスの提供を心がけております。周辺地域や近隣の方々との関わりも重視し、散策や散歩の際のコミュニケーションなども可能な限り心掛けております。また管理者をはじめ他の職員も、地域との関わり活動の一環として多様な関連団体や各グループ活動への参加も積極的に実施しており、行政をはじめ周囲との連携・協力にも尽力しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

神社や田畑が残る住宅地にあつてデイサービスを併設する2ユニットの事業所です。地域の中核病院を運営する社会医療法人でもあり、連携する医療機関の協力ともあいまつて利用者や家族の安心感につながっています。利用者は散歩の途中で地域住民と気軽に会話を交わし、大相撲大阪場所では、近くにある佐渡ヶ嶽部屋 の合宿所に滞在する力士がホームを訪ねる計画が上がっています。現場経験豊かな管理者の元、職員が家族を交えてチームで滞る「利用者一人ひとりの残存能力や思いに注目した個別の介護計画」は、事業所の強みの一つです。また、職員をはじめ看護師も制服ではなく私服を着用し、利用者一人ひとりに決まった介護職員が付くなど、施設感を払拭して利用者や家族との信頼関係を深める工夫をしています。明るくゆったりとしたリビングは清潔感に溢れ、利用者が職員と一緒に動画をしながら手拍子を打って民謡を歌ったり、大好きな手芸雑誌を眺めながらおしゃべりしたり、穏やかに優しい時間が流れていました。細部に「プロフェッショナルな介護とホットな心」が息づくホームです。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 太いが増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

己	自部外	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	0 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ご近所の草花や近隣施設なども活用し、施設理念である「地域や自然に触れ合いながら、ご本人の意思を尊重し、穏やかな共同生活が送れることを目指します。」に沿ったケアやサービスの提供に心掛けている。	「地域や自然に触れ合いながら、ご本人の意思を尊重し、穏やかな共同生活が送れることを目指します」という事業所の理念を各ユニット事務所と、面会や運営推進会議でも利用する多目的室に掲げています。また、着任時のオリエンテーションや倫理研修で理念をテーマに取り上げ、介護サービスの実践に活かしています、	時代変化に対応し、事業所独自のホームページやブログ等を開設して、その中でホームの理念や、理念に基づく取り組みを情報発信するのはいかかでしょうか。事業所内だけでなく、家族や地域社会や関係者に向けた外部発信に期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍以降周辺地域の方々と関わる交流機会が減少したままではあるが、徐々に近隣への散策や特定の方のボランティアの受け入れや交流機会も再開してきている。	散歩の折には地域住民と気軽に会話を交わしています。コロナ禍以降、地域の行事参加や学校関係の交流は中断していますが、町内会長や民生委員と情報交換を続ける中、地域にある大相撲佐渡ヶ嶽部屋の大坂場所宿舎に滞在する力士がホームを訪問する話が上がっています。また、認知症介護の専門知識や経験を活かし、管理者や職員が地域で行われる行政主催の高齢者向け講座やカフェ等に参加しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	市内の福祉センターで定期的開催される元希者(げんきもん)カフェなどへ協力参加し、脳トレニングや転倒予防体操など、地域の方々と交流の機会を通じて広報している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月ごとに開催する運営推進会議については、コロナ禍後委員招集での開催は市の担当課との協議の上中止し書面報告を行っている。先日より再開予定であったが施設内でコロナの罹患確認にて再度中止となった。	運営推進会議は利用者と家族等、町内会長と民生委員、市の介護保険課職員を外部メンバーとして、隔月に多目的室で開催しています。コロナ禍以降、書面開催が続いていましたが、今年度秋にようやく再開しました。会議では事業所の利用状況や行事報告等のほか、ヒヤリハットや事故報告も行っています。参加されなかった家族には議事録を送っています。	成年後見人が付く利用者が2名います。専門職後見人として「知見者」の立場で参加してもらってはいかかでしょうか。家族とは異なる視点が、事業所運営の新たな気づきにつながるかもしれません。

己	自部外	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議が招集できず書面での報告が主となっているが、担当課とは可能な限り連絡を取り、またICTツールなども利用して情報の共有を行っている。	介護保険課の職員とは主に運営推進会議で意見交換を行い、助言をもらっています。会議の中止や不参加の場合にも管理者が議事録を持参して、可能な限り担当者と対面するようにしています。また、市のグループホーム連絡会に入り、同業者とも情報交換を行っています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に委員会を開催し身体拘束についての具体例の把握、また研修会などを開催している。 外出希望の方へは、安全の為玄関の内扉はナンバーキーにて施錠してあるが、個人の支援計画で定期的に外出するプランを組み、スタッフが付き添って外出が出来るように取り組んでいる。	身体拘束防止に向けて委員5人で構成する委員会を3カ月毎に開催し、職員研修を年2回実施しています。委員会ではセンサーマット利用の是非を話し合い、使用している利用者の状態を毎回チェックしています。日中、ホームの玄関は開錠していますが、ユニット玄関は施錠しています。職員は利用者の外出願望やユニット間の移動を制止せず、利用者が玄関に向かえば付き添います。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	定期的な委員会の開催や虐待についての研修会の開催を行い、職員への教育機会を実施している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的に権利擁護についての研修会の機会を設けている。 また実際に後見人を任命されている利用者もおられるため、実際に後見人との情報の提供や共有、連携を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用契約時に重要事項の説明を可能な限りの詳細に行い、納得して頂いた上で契約する事が心がけている。また制度改正や報酬改定の際の変更点なども書面で通知し承諾を得るようにしている。		

己	自	部	外	項 目	自己評価	外部評価	
					実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている		面会時にキーパーソンの方や家族様方ともお会いし会話する機会を設け、施設での近況報告を行うようにしている。また利用者の変化に気付けばその都度連絡や報告を行い互いに情報を共有し、意見等も傾聴させてもらうようにしている。	運営推進委員会や意見箱を設置するほか、管理者や職員は家族等の面会時に時間をもらって家族等から意見や要望を聞くようにしています。また、個々の利用者に決まった担当者を設ける「居室担当制」にすることで話しやすい雰囲気作りに配慮しています。家族宛に毎月届ける事業所便りには、利用者個々の写真と居室担当者からの手紙を添えています。感染防止のため多目的室での面会が続く中、「部屋を見たい」という家族の声に応じて居室内の写真を送りました。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている		管理者は現場職員との距離感を無くし話しやすい環境の構築、また現場職員等が所定の業務に集中しやすい職場環境整備を心がけている。また定期的に個人面談を実施し業務や要望についての意見を傾聴する機会を設けている。	管理者や主任は人望が厚くボトムアップ型の職場です。職員は日常業務の中で管理者や主任に意見や要望を出しています。職員の意見から備品の購入、業務改善につながった事例がたくさんあります。この他、年1回、管理者が業務やシフト等について職員の要望を聞く個人面談を実施しています。また書類のデジタル化やeラーニングによる研修等ITC導入が進む中、管理者は職員にストレスはないかと声をかけています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている		職員それぞれが置かれた立場で能力が発揮できるよう、各種委員会や行事担当など、適材適所の配置に配慮している。また自発的な要望等にも可能な限り対応するように心がけている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている		OJTを中心に、施設内外での研修参加への配慮も行っている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている		市内の同類サービス事業者で構成されている連絡会等に積極的に参加し、横の繋がりや情報共有、また包括支援センターを通じての交流会や勉強会、研修会の案内等も施設内に掲示し職員へ案内している。			

己	自	部	外	項目	自己評価	外部評価		
					実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>								
15				○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約の際に家族等から本人のこれまでの生活歴等を可能な限り詳細に伺い、また書類で提出してもらうことにより職員間で情報を共有し、可能な限りこれまでの生活リズムを著しく崩すことのないような環境整備に努めている。			
16				○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約の際にこれまで家族等が困っていたことや入所後の不安等を伺い、職員間で情報を共有し、時間をかけてでも可能な限り解決や不安を払拭できるように努めている。			
17				○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	契約の際に家族等から書類や傾聴にて、本人の生活歴等の情報を詳細に伺い、これまでの生活リズムや病歴・通院歴など、入所後も維持・継続可能なサービス(外部を含む)の提案を行っている。			
18				○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	グループホームという一つの屋根の世帯としての意識を持ち、利用者と職員が共同(働)して生活できる環境整備に尽力している。			
19				○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	常に連絡や報告を行うように心がけ、家族等との信頼関係構築を重要視している。また定期的な近況報告を兼ねた手紙の送付や面会訪問時にコミュニケーションを取るなどを心掛けている。			
20	(8)			○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近所の神社へのお参りや、周辺への散歩や散策などの機会は可能な限り継続している。また家族で美容師の方がいらっしゃる利用者は、その家族に訪問で理美容を実施してもらったり、また徒歩圏内に家族宅がある方は散歩を兼ねて訪問など行っている。	郵便物や手紙の取り次ぎや、携帯電話の使い方支援を行っています。散歩の途中に利用者の家族宅に寄ったり、民生委員が運営推進会議の後に顔見知りの利用者を訪ねて来たりすることがあります。利用者の郷愁に寄り添おうと民謡や野球ルールを覚える職員もいます。		

己	自	部	外	項 目	自己評価		外部評価	
					実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
21				○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う他の利用者と、洗濯物干しやたたみ、食事の盛り付けなどの手伝いを実施してもらったり、同郷の方々との会話ができるような配慮を行っている。また1階と2階との関わりを持つ交流時間も設けている。			
22				○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	以前退所された方の家族の入居相談など、契約終了後においても新たに別家族の相談が頂ける関係性を維持できる環境づくりに心がけている。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>								
23	(9)			○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	契約の際に本人や家族より聞き取らせて頂いた情報を元に、これまでの生活歴や職歴を活かした生活ができる様に心がけている。また日常会話の中での些細なヒントも聞き逃さないように注意している。	職員は日々の暮らしや会話の中で利用者の小さな変化をキャッチし、思いや意向を把握するよう努めています。意思疎通の難しい利用者には身振りや手振り、表情、声のトーン、時にはマスクを外して笑顔を見せるなど全身を使ってコミュニケーションしています。新たに掴んだ情報はアセスメントシートに追加したり、気付いたことを情報ノートや利用者ノートに記録し、情報共有して介護計画に役立てています。		
24				○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	契約の際に本人や家族より聞き取らせて頂いた情報を元に、可能な限りこれまでの生活リズムに添った生活が送れるよう心がけている。以前の生活場所から食器等の品々を持ちこんでもらい、馴染みのある環境整備にも努める様にしている。			
25				○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	これまでの生活歴を基本に、それぞれが可能な役割を持って頂いたりして共同生活の一員としての自覚と認識を持って頂くように支援計画を立てている。			

己	部	外	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)		○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人ができる事を活用するケアプランを作成し実践するようにしている。各居室担当者を選任し、担当者は利用者の変化等に注意して毎月のモニタリングの実施、また日常生活のケアを実践し、都度プランの作成・更新を行っている。	介護計画の見直しは原則半年に一度ですが、変化があれば都度見直しています。職員は計画に上げた支援項目をワークシートに落とし込んで日々モニタリングし、月に一度、居室担当者がまとめた情報を基に、居室担当者と計画作成担当者が医療情報や家族の声をもち寄ってカンファレンスを行っています。まさにチームで作る、利用者一人ひとりの経験や思いを反映させた個別の介護計画になっています。	
27			○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の介護記録は可能な限り細かく詳細に記録するようにしている。特に身体状況や精神状態の変化等は記録だけでなくカンファレンスや申し送りノートなども活用して現場職員で情報共有をしている。		
28			○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	どのような事案が発生するか想定する事は難しいが、ケースバイケースで職員の知識や知恵、潜在資源等を活用して、可能な限りその利用者や家族が求める希望やニーズに対応出来る様に心がけている。		
29			○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	初詣や花見などの行事企画、ケアプランでの支援計画などで周囲の施設へ散策や外出を行っている。また外部の方との交流機会も社会情勢等を考慮して実施再開したい。		
30	(11)		○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人やご家族が希望するかかりつけ医がある場合は希望に添うとともに協力医療機関の往診医も選択できる環境である。また施設の母体法人が医療法人であり、紹介先の医療機関の体制も整えている。	協力医療機関の内科医の定期的な往診があり、殆どの利用者が利用しています。希望するかかりつけ医や他科受診も可能で、家族が同行しますが、無理な場合は職員が同行しています。週1回、歯科医師の往診もあります。看護師の職員が医師と連携、日常の健康管理に努めています。事業所の母体が社会医療法人で、急変緊急時、24時間連絡可能で安心です。家族には、利用者の健康状態を担当者より適宜連絡しています。「研修担当者」を配置、食中毒対策など必要な研修会を実施しています。	

己 自部 外	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1度は施設の看護職員が利用者の健康状態や経過についての確認や相談する機会を設けている。必要な場合には医療的な処置の実施や主治医への相談、受診の判断等、常に看護職員との連携を心掛けている。		
32	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	母体法人である医療機関への入院の際には常に連携が取りやすいが、他の医療機関への入院に際してもご家族様や先方相談員等との連携を取りながら、入院後の経過把握や退院後の受入体制の整備などに努めている。		
33	(12) ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	介護状態の重度化や健康状態の悪化などが顕著に現れた場合、またその可能性が高いと推測できる場合には、本人やご家族の希望を元に主治医や協力医療機関、施設職員とも話し合いを持ち連携し、施設においてその希望に沿った対応が出来る様にしている。	ホームでは「重度化した場合における対応および看取りに関する指針」と「看取り介護についての同意書」を作成し、家族が看取りを希望した場合、施設と主治医が相談の上、状态的にホームでの対応が可能と判断した場合「看取り」を行っています。また、看取りの際には法人母体の医療機関だけではなく他の協力医療機関（協力医療機関体制契約済の往診医）とも連携しています。終末期にホームを離れた利用者も、それで終わりではなく、その後の見守りも大切にしています。	
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な研修会の実施や、マニュアルの作成、更新などによって対応できるようにしている。		

己	部外	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的実施する避難訓練等で、避難場所・避難経路の確認、また実際の火災発生時の訓練として訓練用消火器を用いて初期消火の訓練を実施、また実際の自然災害等の発生時にはBCPの発動や地域等への協力体制を構築している。	非常災害時マニュアルを作成し、発災時の発報から鎮火までの手順を文書化しています。自衛消防隊を編成、防災管理者の下、事前申請書類を消防署に提出し、年2回消火、避難訓練を実施しています。「一人ひとりが考える」を大切に、災害対策に関する研修では動画を各自視聴、テストを実施し今後の課題を皆で検討しています。消火器、火災報知器、自動火災通報装置を備えています。災害備蓄品は法人で一括管理をしていますが、ホームでの保管管理を目標にしています。水は独自で確保、併設の通所介護事業所と連携して、白米を炊くことも可能です。	ホームは災害に備えて、具体的な対応策を構築しています。いつ起こるかかわからない災害に備えて、避難場所までの経路、時間、危険な場所、収容スペース等、懸念される案件の確認が望まれます。まずは、職員のみで行われてはいかげんでしょうか。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日常のケア実施の中での会話や声かけに注意し、スピーチロックや命令口調等になっていないか、利用者側に選択できる声かけ誘導等が出来るかなど、主任やスタッフ間が現場で声を掛けあっている。	個人の人権やプライバシーを尊重する支援に努め、研修会も実施しています。不適切な対応に遭遇したら、管理者はそれとなく助言しますが、他の職員にも気づいてほしい時など、状況により対応を変え、意識徹底に努めています。利用者、職員とも女性が多い中、男性入居者の存在が、羞恥心への配慮等を気づかせてくれることもあり、職員間で話し合うことができています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話だけでなく、利用者の表情や行動・言動に現れたサインなどを見落とさないようにキャッチし、利用者が何を仰りたいのか、伝えたいのかを汲み取る等の対応をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	可能な限り利用者の生活リズムを崩す事が無いよう、起床、入床、食事時間、余暇の過ごし方等、利用者本人の意思を優先したケアを実施するようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入所時に好みの衣類や靴などをお持ち頂き着用してもらっている。また定期的に訪問美容に來所してもらい、希望者はカットやパーマ、ヘアマニキュアなどをしてもらっている。		

己	自部外	項目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付けや食器の後片付けなど、自ら喜んで実施して頂いている利用者もいらっしゃる。誕生日には赤飯を準備したり、時季的に企画する”イベント食”では季節を感じながら食材等も考慮した献立で提供している。	毎夕食と日曜日の昼食は、調理済の食材が届き、利用者の好みに合わせ盛り付けています。平日の昼食は併設のデイサービスの厨房で調理、ご飯・汁物と朝食は職員がユニットのキッチンで作り、利用者は盛り付けや配膳など、できる事を手伝っています。郷土料理で故郷の味を楽しむこともあり好評です。食欲がない時は無理強いせず、家族に好みの物の差し入れを頼むこともあります。せとものの食器を使用、各自好みの箸や茶碗、湯呑みで食事を楽します。少量のビールを毎晩嗜む利用者もいました。職員は食事場面での気付きも大切にしており、一人ひとりに寄り添った支援に繋がっています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	現病歴や既往歴、時候、摂取状況や食事形態、嗜好などを考慮しながら提供し、その状況をケア記録として記録している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	週に1度の協力医療機関からの歯科往診時に歯科医師の処置や歯科衛生士による口腔ケア、その際の助言や歯科診療計画を元に、スタッフが口腔ケアを実施している。また週に1度は義歯洗浄剤等を使用して義歯洗浄・消毒を実施している。			
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	それぞれの利用者の排泄リズムを把握しケアを実施している。また自ら排泄を訴えづらい方の排泄サインを見逃さないようにキャッチする情報共有も心掛けています。	排泄パターンを把握し、それとない声掛けでトイレ誘導をしています。パッドや紙パンツは利用者に合った物を使用し、心地良く着用できるように支援しています。夜間は睡眠の妨げにならないようポータブルトイレや紙パンツも利用して個々に対応しています。トイレは車椅子対応型、手摺り対応型など各ユニットに3カ所あり、短い距離の移動で行くことができます。		

己	自部外	項目	自己評価	
			実践状況	実践状況
			外部評価	
			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者ごとに設定している一定期間の排便が確認できない場合は、緩下剤等の使用を実施している。また朝食時に普段以上の水分量の摂取や牛乳などを摂取したり、体操やマッサージで腹部を刺激するなどして自然排便を促している。	
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日時は概ね決めていたが、その日の体調や気分、それらを変更するなど柔軟に対応している。シャンプーやボディソープなども個人的にお好きな商品を選択して使用してもらっている。また冬至の日は“ゆず湯”なども実施している。	入浴は週2～3回ですが、希望があれば、柔軟に対応しています。入浴を好まない利用者には、順番や曜日を変えて声掛けしています。家庭的な浴室には、浴槽用手摺りも備えられ、床面は滑り止め仕様が施され安心安全に入ることができます。脱衣室床は竹製で、棚にはシャンプーや石鹸、化粧水を利用者毎にまとめて保管しています。リフト浴やシャワー浴で利用者全員、浴槽に浸かることができます。入浴時は話をしたり、共に歌ったり、また、身体の変化にも気付くことができる大切な時間となっています。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者ごとの入床時刻なども考慮しながらナイトケアなどを実施している。また希望で以前より使い慣れた寝具等の持参も促していただき安眠を支援している。	
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医や調剤薬局とも連携を取り、服薬中の内服薬等による副作用や薬害などに留意し、必要な際には施設の看護師をはじめすぐに相談できる体制づくりに努めている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクリエーションなどでは、利用者が以前から趣味にされていたことや、お勤めされていた際に行われていた手技、また園芸などにも活かしている。	

己	自部外	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍以降は面会の制限や外出があまり出来ておらず、その為可能な限り施設職員とともに周囲への散策や散歩、日課の新聞の受け取りなどの支援計画の実施、近隣宅の園芸観賞なども実施するようにしている。	外出の機会を徐々に取り戻しつつあります。少人数で感染対策をとり、春には桜見物に出かけました。外気浴を兼ねて近隣の散歩にも出かけています。また階下にピアノを聴きに行く、新聞を読むためフロアを行き来する、隣の畑の作業風景を見るなど、職員が付き添って、気分転換が図れるように工夫をしています。音楽好きの利用者のために、ベランダでのギター演奏会も計画中です。神社のお詣りや地域の行事参加など、外出の機会を増やしていきたいと考えています	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者自ら金銭管理される方や、買物などを希望して同行支援する機会も減少しており、現状金銭的な支援の機会はほとんど無い。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個人の携帯電話の持ち込みや、ご家族との電話の取次ぎも実施している。またご家族様からタブレット端末をお預かりし、定期的に利用者の様子を送信したりもしている。郵送されてきた郵便物も迅速に対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室は花の名前で区別し、必要な方へは入口に名前を表示するなどしている。廊下や掲示板には手作りの展示物や、掲示板には季節感を味わって貰えるような作品等を掲示・展示し、自宅のリビングルームを思い起こすような環境整備に努めている。	掃き出し窓から射す陽が明るい、対面式カウンターキッチンを備えた家庭的なフロアです。2階のユニットは、シャンデリアと壁面に取り付けられたいくつものスポットライトが柔らかかに照らし、天井近くには換気と採光の窓があります。テーブルの間隔は広く、車椅子の動線を確保した配置になっています。一人用のテーブルも用意し、利用者は自分の居場所を見つけて席に着きます。また、複数のソファを設え、テレビを見たり、利用者同士、語らいを楽しんでいます。手作りの大きな作品を掲示、季節の果物のガーランドで、楽しい雰囲気のある空間となっています。	

己	自	部	外	項 目	自己評価		外部評価	
					実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
53				○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのテレビ前にはソファを設置し、自由に使用できる環境にある。また食事の際の座席は原則固定しているが、気の合う方の近所やテレビが見えやすい場所など、それぞれで好きな場所に座っていただけるように配慮している。			
54	(20)			○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所前の自宅で生活されていた馴染みのある品々を持参して頂き、入所後の居室でも引き続き愛用していただくことで住み慣れた環境を継続できるように心掛けている。	それぞれの花の絵が添えられた表札を掲げ、手作りの暖簾には名前を記して、わかりやすくしています。 居室には造り付けのクローゼットと洗面台があり、ベッドとチェストをホームで設置、利用者は馴染みの物を持ち込みます。仏壇を祀った部屋、テレビや机、椅子を設えた部屋もあります。ベッドにエアーマットを敷いて快適な睡眠の確保に繋げる利用者もいます。居室担当制により利用者の思いを汲み取る中、かわいい縫いぐるみのクッションが褥瘡予防に役立ちました。入居前の暮らしとの違和感を感じさせない、居心地のよい居室作りを大切に支援しています。		
55				○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	様々な役割を持って生活していただいている利用者の妨げにならない様に、設備品や家具類の配置に注意している。施設内も可能な限り手書きの案内表記物などを使用し、施設感が出ないように工夫している。			